

水稻新品種「ミナミヒカリ」について

西山 壽・内山田博士・*八木忠之・*新村善弘・*轟 篤・**小八重雅裕
 黒木雄幸・本部裕朗・(故)衛藤信男
 (九州農業試験場・*宮崎県総合農業試験場・**宮崎県農政水産部)

Hisashi NISHIYAMA, Hiroshi UCHIYAMADA, Tadayuki YAGI, Yoshihiro SHINMURA, Atsushi TODOROKI, Masahiro KOBAE, Yukou KUROGI, Hiroaki HONBU and the late Nobuo ETO: A New Rice Cultivar "Minamihikari"

水稻新品種「ミナミヒカリ(南光)」は1986年から、宮崎県・鹿児島県において奨励品種に採用され普及に移された。ここに本品種の育成経過ならびに特性概要を報告し、普及の参考に供する。本品種の育成に関し、種々ご高配にあずかった各機関各位に深く謝意を表する。

1. 来歴および育成経過

本品種は、1972年宮崎県総合農業試験場(農林水産省指定水稻育種試験地)において、南海55号(ミナミニシキ)の白葉枯病抵抗性強化を目標に、南海55号を母、抵抗性の宮持1を父として人工交配を行い、1974年F₄で穂別系統として個体選抜を行い、以後系統育種法により育成されたものである。1978年F₈より南海75号の系統名で関係県に配布して、地方的適否を検討してきたもので、1986年6月、「水稻農林282号」として登録され「ミナミヒカリ」と命名された。

第1表 ミナミヒカリの特性概要

形質		品種名		
		ミナミヒカリ	ミナミニシキ	ミズホ
早草	晩生型	晩生の晩中間型	晩生の晩總数型	晩生の晩中間型
出穂期(月、日)		9.4	9.4	9.6
成熟期(月、日)		10.21	10.20	10.22
穂長(cm)		77	77	78
穂長(cm)		21.5	19.7	20.7
穂数(本/m ²)		348	364	333
芒の多少・長短		無	少・短	少・短
稈先色		黄白	黄白	黄白
脱粒性		中	中	やや易
耐倒伏性		強	極強	強
耐病性	葉いもち	やや弱	中	中 ($\frac{P_1-k_m}{P_1-k_m}$)
	穂いもち	中	やや強	中 ($\frac{P_1-k_m}{P_1-k_m}$)
	白葉枯病	やや強	やや弱	中
	縞葉枯病	罹病性	罹病性	罹病性
玄米重(kg/a)		51.9	52.7	53.4
玄米千粒重(g)		22.6	23.0	22.3
玄米品質		中上(3.9)	中上(4.4)	中上(4.5)
食味		上下	中上	中中

注) 育成地における1976~'85年の標準栽培

2. 特性の概要

1) 形態的特性 ミナミヒカリの穂長は、ミナミニシキ・ミズホ並のやや短穂で、穂数はミナミニシキとミズホの中間、穂長は長いやや短穂中間型である。葉幅葉色は中位で、止葉はやや長く立つ。粒着密度は中位で芒はない。稈先色は黄白、脱粒性は中である。粒形・粒大は中位で、品質はミナミニシキ・ミズホより良く、搗精歩留はミナミニシキ並である。食味はミナミニシキ・ミズホに

第2表 食味官能検査(日本穀物検定協会, 1985)

品種名	外観	香り	味	粘り	硬さ	総合
ミナミヒカリ	0.222	-0.111	0.111	0.111	-0.167	n.s. 0.056
ミズホ	0.000	-0.167	-0.444	-0.333	-0.222	-0.500
コガネマサリ	-0.111	-0.056	-0.056	-0.167	0.167	n.s. -0.056

標準品種: 日本晴(滋賀県野州郡中主町産)
 その他の品種は宮崎総農試産, *5%有意差

第3表 白葉枯病抵抗性(宮崎農試, 1976~'85平均, '80欠)

品種名	発病程度	総合評価	品種名	発病程度	総合評価
ミナミヒカリ	3.34	やや強	ミズホ	4.71	やや弱
ミナミニシキ	4.93	やや弱	日本晴	3.73	中

日群噴霧接種により0(無)~9(全葉枯死)に分類

勝り、良食味品種のコガネマサリ並である(第2表)。

2) 生態的特性 出穂期・成熟期ともミナミニシキ並で、晩生の晩に属する稈種である。耐倒伏性はミズホと同等以上に強い。収量性はミナミニシキ・ミズホ並に多収である。いもち病抵抗性遺伝子型は+と推定され、葉いもちの抵抗性はニシホマレよりやや弱く、ツクシバレ並のやや弱である。穂いもちの抵抗性はミナミニシキよりやや弱くニシホマレより強い中である。白葉枯病抵抗性品種群は金南風群に属し、圃場抵抗性はミナミニシキ・ミズホより明らかに強く、日本晴に勝るやや強である。(第3表)。

3. 奨励品種採用理由

宮崎県におけるミズホは、草姿良く強稈安定多収であるが、品質食味等の市場評価が悪く、作付が減少している。ミナミニシキは強稈多収良質であるが、年によって腹白・乳白が発生し、品質が不安定であり、白葉枯病に弱い。ミナミヒカリは、葉いもちにはやや弱いが、耐倒伏性強く、白葉枯病にもやや強い。収量性は同程度の多収で、品質・食味が勝っているため、普及が見込まれる。

鹿児島県におけるミズホは、安定多収である反面、品質食味の市場評価が芳しくない。ニシホマレは安定多収であるが、食味の市場評価が芳しくない。また、一部地域には、鹿豊・レイホウ等耐倒伏性に問題のある中晩生種が作付されている。ミナミヒカリは葉いもちにやや弱いが、短強稈で、ミズホと同程度の多収である。特に食味はニシホマレ・ミズホよりかなり良く、普及が見込まれる。

4. 栽培上の注意

葉いもちにやや弱いので、適期防除につとめる。また、まれに上位葉が伸長し、ややうっべい症状を呈することがあるので、基肥の極端な多施用を避けるとともに、気象条件を勘案しながら、穂肥施用量にも留意する。